

かながわ経済新聞 (ビズログ)

KANAKEI

県内ビジネス情報イッキ読み!

2022 VOL.097 1月号

発行 KANAKEI

〒252-0229 相模原市中央区中沢3-12-3
相模原市上野原 本誌 1F
発行 株式会社

「人材」でお困りなら
株式会社 ミヨシロジスティックス
042-776-8619 <http://hiyoshi-log.co.jp/>

HEADLINE

▽県内上場企業、業績改善続く(2面)▽県内企業が生命マンマーマー人譲手支援(3面)▽リサイクル施設、フードループに一角(4面)▽元上場企業役員、第2の人生は「共創」(5面)▽オフィスにグルメリュメを「ストック」(6面)▽ものづくりで大変な仕事を手助け(7面)▽「オオトカゲ」で新規事業(8面)▽フィリピンのごみ問題解決、2社が協力(9面)▽知恵次第、小さくても世界一(10面)

金属加工、生産性と環境配慮実現

リガルジョイント、オリジナル切削液の営業強化

リガルジョイント(相模原市南区大野台、☎042-756-7567)は、金属加工用の次世代型切削液「Re-AL(リアル)」の営業を強化する。専用ホームページを開いたほか、営業車に小型工作機械と「リアル」を積み込み、お客さんの現場に出向いて実演、職人に体験してもらうキャラバン活動も展開。展示会出展の機会が減少する中で、攻めの営業をすることで地道に受注を獲得している。

同製品は、金属を削る際に必要になる切削液(クーラント液)の代わりとなるもの。pH12.5の強力なアルカリ電解水で、専用の添加剤を入れて使用する。

工作機械の切削液は通常、繰り返し使っていると液が汚れ、悪臭の原因に

なったり、潤滑性が低下し工具が劣化したりする。そのため、使用済みの切削液を“廃液”として定期的に処理しなければならない。

それに対し、「リアル」に切り替えることで、腐りにくくなり悪臭を防ぐ。廃液そのものが出にくくなるため、処理費用

の大幅削減にもつながる。「何よりも環境負荷が減らせます」(稲場純社長)としている。

同社の試算によると、使用済み切削液を5%積みのタンクローリーで回収し、最終処分場で焼却処分した場合、二酸化炭素(CO₂)は1460*。分を排

出するが、「リアル」にすることで、CO₂排出量が抑えられるという。「サステナブルなクーラントです」と稲場社長は強調している。

生産効率の向上も見込む。ユーザー試験の結果では、アルミの旋盤加工で加工タイム17%減、真ちゅうの切削

加工で同27%減になったという。

現在、生成装置を標準タイプで500万円から販売。関連会社では、生成された「リアル」を量り売りしている。稲場社長は「導入することで、中小加工業者にとっては、明日からできる身近なSDGsにもつながります」と話している。

